

菊川市駅伝チームだより



令和5年12月7日

チーム目標「考え、学び合い、共に伸びる菊川市チーム」

考え、学び合い、共に伸びた菊川市チーム

「考え、学び合い、共に伸びる菊川市チーム」を目標にして半年間練習を積み重ねてきた菊川市は、『第24回静岡県市町対抗駅伝競走大会』において、**目標タイムを31秒も上回る2時間19分30秒でゴール**することができました。その結果として市の部で**菊川市過去最高順位の11位**になりました。また2人の小学生が参加した1500m走も、みごとなレース運びで共に**目標タイムを10秒前後上回る好成績**を残しました。そして、関係者全員で喜びを分かち合うことができました。きっと喜んでくださった菊川市民も多かったのではないかと思います。

この半年間を振り返ってみると、目標通り監督・コーチ・事務局などを含めた関係者全員が成長しましたが、特に選手（選手に選ばれなかった練習参加者も含める）は、走力だけでなく人間力も大きく伸ばしたと思います。そして人間性の成長が走力の向上にも繋がり、**相乗効果**となりました。そのいくつかを挙げてみます。

○自分に厳しく、自己目標に向かって努力

- ・例えば「自己目標達成シート」（7月末時）において、「自己目標達成のための手立て」の肯定的評価（4段階中の上位2段階）は、約87%だった。そして、9月末時は、さらに自己評価が向上した。

○困難に打ち勝つ姿

- ・故障、病気、受験との両立、他の活動（スポ少など）との両立など大変なことがあっても、工夫しながらそれらを克服する努力を続けた。



○互いに学び合い、切磋琢磨

- ・練習日の始めの会において自己目標と達成のための手立ての発表を行うことで、他の人の努力を知り、刺激を受けたり自分に活かそうとしたりした。また、レベル別グループで走ることで、同レベルの人たちと競い合うことができた。終わりの会では、練習の反省の発表とコーチからの助言で練習を振り返り、今後活かすことができた。

○感謝の気持ちの表現

- ・監督の言葉や駅伝チームだよりを通して感謝の気持ちの大切さを伝え続けたことで、練習終了時に監督・コーチなどへ自主的に「ありがとうございました。」とあいさつをしてくれていた。また、大会では、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちを胸に力走した。

○忍耐力や思いやりの心

- ・選手選考レースで敗れたり選考会で選ばれなかったりした人たちは、悔しい思いをしたと思う。しかし大会では、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、付き添いなどで献身的に支えてくれた。

このような成果を挙げられたのは、多くの方の支えがあったからです。特にご家族の皆様は本当に大変だったと思いますが、5月末の説明会でお伝えしたチームの方針や選手選考基準をもとにした選考などへのご理解・ご協力、選手への心身両面における支援をありがとうございました。そして、選手の皆さんが、**この経験を糧にさらに成長**することを期待しています。

【文責：北原弘明（監督）】